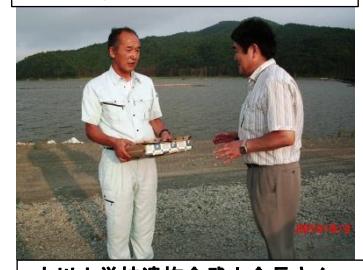


# 最新ニュース 8月2~3日、石巻被災地へ行ってきました！

- ① 石巻市雄勝町立浜の仮設の皆さんを訪ね、「今年6月頃からホタテ漁が始まりました。今朝も3時から漁に出かけ、とれたホタテは組合の業者へ5時に収めました。」と大変喜んでお話しくださいました。獲れたての貴重なホタテをご馳走してくださいました。私たちのほうが被災地の皆さんの明るく前向きな姿に、生きる勇気を頂きました。本当に有難うございました。
- ② 大川小学校遺族会の武山会長さんを訪ね、遺体捜索支援金をお届けしました。大川小学校の4人の子供たちがいまだ行方不明で捜索を続けています。遺族の方にとっては、なんとしても遺体を発見してあげたいと必死な思いで捜索を続けておられます。「写真の後ろは地盤沈下した農地です、この海水をポンプで吸い取り、子供たちの遺体を捜索します最後の手段です。」
- ③ 東松島市大曲浜の仮設、小野竹一さんを訪ね被害状況をわかりやすく教えて頂きました。小野さんの近所の嫁さんは震災時に学校から家に着物をとりに来て津波に遭い、車ごと流されたとき大型トラックにぶつかり窓ガラスが割れ、運転手が手を差し伸べてくれ窓から救出されたが、車の中にいた小学生の二人の子供に手が届かず、「おかあさーん」と叫ぶ声、そのまま流され遺体で発見されました。お母さんは「なぜ私だけが助かってしまったのか！」と毎日自分を責めてしまう心境です・・・と言われています。本当に被災者の方々は今も必死に生きておられるのです。
- ④ 福島県「帰還困難」飯館村長泥地区国道399号線閉鎖拠点に行きました。私たちは、南相馬市役所を訪ね、市内の放射能汚染被害状況を聞きました。南相馬市内でも小高地区が帰還困難区域に指定され、すべての民家が避難したとのことでした。さらに飯館村も原発の放射能汚染被害により居住制限区域となり、畜産農家の家や役場、商店街は誰も住めず避難してしまい廃墟の町でした。399号線を進んだ長泥地区は国道が閉鎖され、保安員の方が通行車両の監視にあたっておられました。閉鎖地点で車内の放射能線量計は<3.99 シーベルト>に上がり危険ブザーが鳴り続けていました。その外で、保安員の方々は防護服を着て一日中働いておられるのです。



今、日本政府では、エネルギー政策の国民アンケートを行っています。

3, 11の震災と福島原発の水素爆発から1年4か月が過ぎた今も、福島県の皆さんには、我が家に帰れず、いつ帰れるかもわからない。

25年前の切尔ノブイリ原発事故の地域では、いまでも放射能に汚染されて約30キロ圏内が廃墟になっています。

私たちは、原発の本当のことをもっと学び、放射能の恐ろしさをしっかりと見て、将来の日本を子孫のために残していく道を正しく判断しなくてはなりません。そんな重大な責任を深く感じて帰ってきました。

政府は7月17日午前0時、東京電力福島第1原発事故で全村を計画的避難区域に指定していた飯館村を「帰還困難」「居住制限」「避難指示解除準備」の3区域に再編した。避難区域再編は田村市、川内村、南相馬市に続き4例目。再編が全村単位で行われるのは初めて。(2012年7月17日現在)



NPO 法人ピースサポート協会 資料

